



農業振興策は。

近年、農産物の価格低迷、生産資材の高騰、大型台風の襲来等、平成24年度の農業生産額は32億2000万円と過去にない厳しい年度となった。今後の振興策は。

平成25年12月定例議会 平 秀徳

町長答弁

畑かん営農を推進し、土地利用型農業、施設利用型農業の振興を図る。

担い手農家の育成・確保、生産基盤の整備・強化などが喫緊の課題である。畑かん営農を推進し、サトウキビを基幹作物に輸送野菜、花卉、葉たばこ、畜産を組み合わせた複合経営の推進を図る。

こうなりました

畑かん営農を推進し、土地利用型農業、施設利用型農業の振興を図っている。

今後、畑かん活用による園芸作物拡大を図るため、奄美農業創出支援事業の活用や知名町園芸産地確立事業を創設し、施設利用型農業の振興と、さとうきび増産基金事業によりさとうきび作経営の立て直しを図っているところです。



救急あんしんキットを配布して緊急時の対応をスムーズに。

高齢者や障害者などの緊急連絡先、かかりつけ医、持病、服薬情報、健康保険証のコピー、本人の写真などの情報を専用の容器に入れて冷蔵庫に保管しておくことで、救急隊が情報をもとに対応できる。

平成25年12月定例議会 松元 道芳

町長答弁

緊急連絡カードを作成し配布しているがさらに改善したい。

町では緊急連絡カードを作成し、ひとり暮らし高齢者等の世帯へ配布、活用している。しかしキットの方がより詳細な情報があり、救急隊員の迅速な対応につながる。また、持ち出しにも便利なことから、消防署等関係機関と協議し、改善したい。

こうなりました

救急医療情報キット交付事業を始めました。

ひとり暮らし高齢者等の安心・安全を確保するため、7月1日より事業を実施している。町のホームページや広報紙に掲載し、また老人クラブ定例会や字の介護予防教室等にて事業説明を行い、キットの台帳登録をすすめ、万一の緊急時に備え適切で迅速な処理ができるよう推進している。

